

第3回全国高等学校 ARDF 競技大会について

茨城県立総和工業高等学校 小平 利昭

まず、今回の参加人数と参加校ですが、103人(104人エントリー)20校の参加。年々盛り上がっている喜ばしい結果だと思います。レベルの向上は、この大会だけでなく、各地方大会、全日本大会等を見ても、明らかであると思います。

今回の大会は、「第6回 I A R U 第3地域(Reg.3) A R D F 選手権大会」の3.5Mhz で使われたフィールドであった為、国際競技では4つ探索も大変なところ、5つの探索、本当に大変であった、と思います。

探索個数による考察。

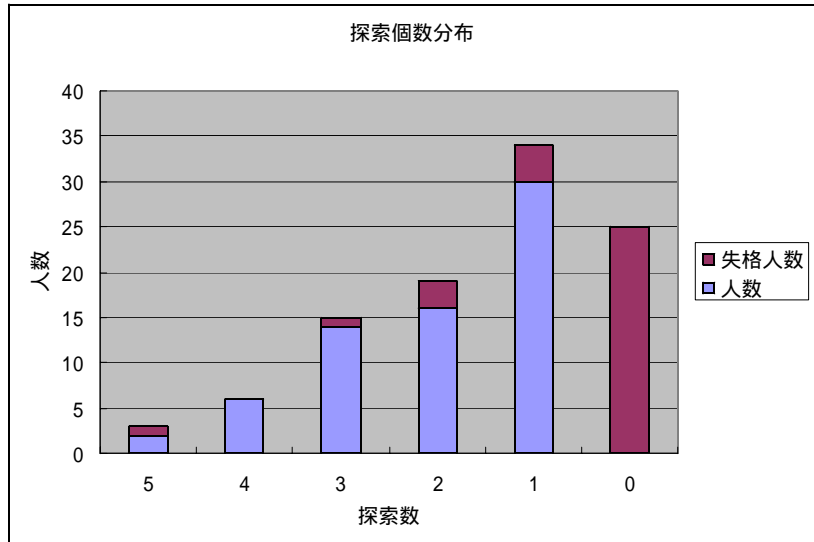
この大会の結果をふまえ、いくつか今後についても考えてみたいと思います。

右のグラフを見てください。探索個数と人数の分布です。

探索数5は、当然1位2位ですが、2分46秒オーバーの失格選手1名も含んでいます。これは、時間確認のミス(時計故障・タイム確認違い等)か、5つ目の発見が、本人の思っている以上に時間がかかってしまったため、などが考えられ本当に残念です。

今回のこの結果を見ても、5個探索失格を除いて、探索数が少なくなると失格者が増えます。(0個の場合は、探索無し失格を含んでいます。)入賞できないから、上位に入らないからあきらめてしまわないよう、最後まで、入賞しなくても、時間内の戻ってくることを、心がけてほしいと思います。

探索個数が複数の場合は、最高4分41秒で、ほぼ探索数が多いほど、オーバーした時間は、少なくなっているようです。気持ちの表れが、ここに出ていると思います。



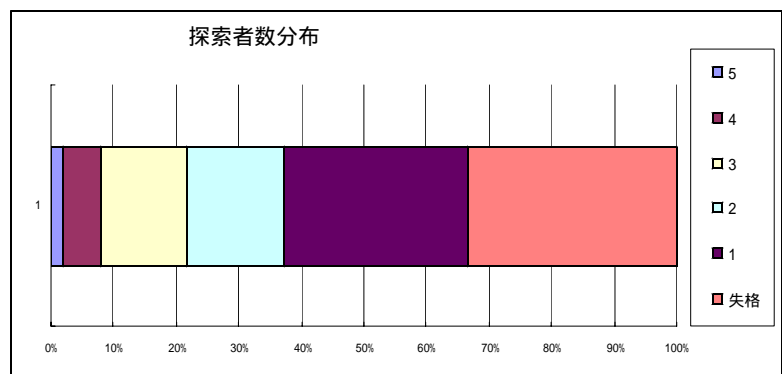
次のグラフを見てください。

探索した、人数のグラフです。

探索個数によるピラミットが出来ています。今回の設置が技術に基づいた設置であることが、わかります。

注目すべきは、**33.3%の失格者が出ています。**探査機数1を含めると、62.7%にもなります。この数を減らすことが、今後の課題になると思います。

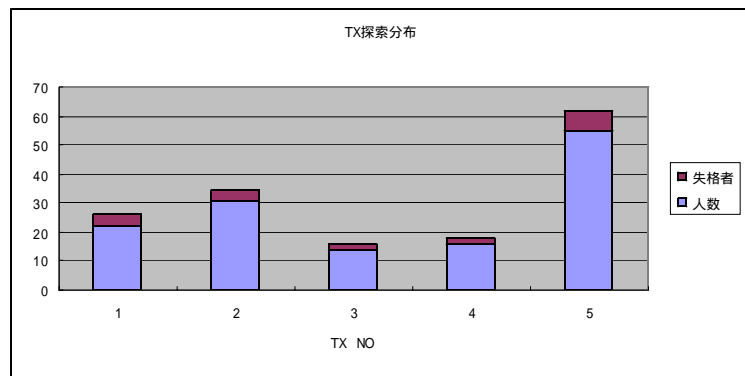
夜のミーティングにも出た、「初心者講習の充実」がここにあるのでしょうか。1つ探してくれば、楽しさは、失格の何十倍も味わえると思いますので、次年度以降、初日の午後に各顧問で、がんばりましょう。



TX による考察

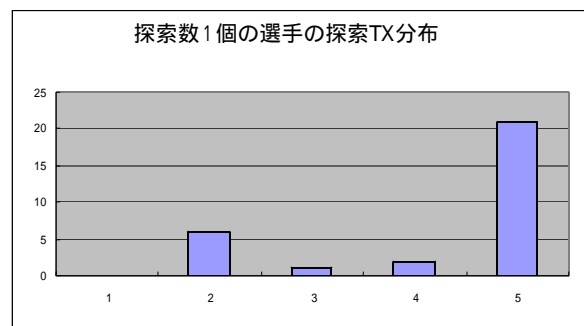
次のグラフは、探索 TX 番号の分布です。5 番が簡単で、3 番が見つけたことがわかります。4 番は、行き過ぎてから戻るのが無く、見つけれない選手が多かったようです。

ここでは、5 番を見つけ失格の選手を除いても、3 番や 4 番を見つけ失格している選手がいることです。特に、難しいはずの 4 番だけを見つけ 5 6 秒オーバーになってしまった選手は、今後は期待できるはずで



探索数 1 個の選手たちの、TX 分布を見てみましょう。

5 番が多いのはわかりますが、1 番の探索者が居ません。1 番は、ゴールにも近く、極端に難しいわけでもないのに、探索選手 0 人です。これは明らかな時間配分のミスではないでしょうか。この辺が、今後のレベル向上のポイントになるのではないのでしょうか。



もう一つおもしろい結果があります。この表は 4 つ探索選手の通過時間の表です。最後に 1 番を探して、10 分以内 (3 分から 10 分) でゴールした選手は、上位。最後に 3 番を探して、10 分以上かかってゴールした選手は、下位となっています。ゴールから遠い TX から探索して、ビーコンを確認しながら、探す。鉄則に、乗っ取った顕著な結果が現れています。

所要時間	TX	通過時間	TX	通過時間	TX	通過時間	TX	通過時間
1:42:40	5	0:31:18	2	1:05:25	3	1:22:38	1	1:35:27
1:47:01	5	0:25:46	3	0:59:33	2	1:18:55	1	1:37:49
1:48:22	4	0:31:21	5	0:45:50	2	1:19:09	1	1:45:01
1:52:39	4	0:41:14	5	0:55:57	1	1:27:03	3	1:40:41
1:54:36	5	0:31:10	2	1:00:07	1	1:19:41	3	1:39:21
1:58:34	5	0:25:40	4	0:46:22	2	1:18:48	3	1:38:54

